

2020 春学期 京田辺 キリスト教と人間 1-3 (旧約聖書の視点から)  
旧約聖書とキリスト教-3 (現代の視点からの学び )  
2020 春学期 今出川 キリスト教と人間 1-55 (旧約聖書の視点から)  
旧約聖書とキリスト教-55 (現代の視点からの学び )

担当：竹ヶ原政輝

## 第5回 族長物語とイスラエル

序.

『創世記』は「天地創造」から「ノアの箱舟」、「バベルの塔」といった神話的な物語によって世界と人類の起源、その変化について語る。

最初の「人」であるアダムから 10 代目ノアの時代、神は地上の悪を洪水によって一掃しようとする。

しかし、ノアは神の命によって建造した箱舟に乗り、家族や動物たちと共に生き延びる。

二度と世界を滅ぼすことはしないと誓った神は、\_\_\_\_\_のしるしとして虹をかける。

やがて神は罪の世界に対する決定的な介入を再び決意する。

それがイエス・キリストによる \_\_\_\_\_であった。

その出来事に至るまで、神は世界に対して単なる傍観者でいたわけではない。

一つの民族を選び、その神として共に歩む中で世界に寄り添い続ける。

その民族の祖の物語が、今、始まる…。

### I. 「奇妙な冒険」の始まり

創世記 12：1～9 を読もう。

アブラハム = \_\_\_\_\_

「多くの民の父」という意味

もとの名をアブラム

「偉大な父」という意味

ここからは、イスラエルの“血統”の物語

→ \_\_\_\_\_

アブラハム、イサク、ヤコブら、最初の主人公たちを“\_\_\_\_\_”と呼ぶ。

アブラハム

カルデアのウル出身

ユーフラテス下流にあった古代シュメールの都市。

紀元前 4000 年頃栄えていたが、大洪水で一旦失われてしまったという。

ハランを經由し、\_\_\_\_\_（現パレスチナ）へ移住。

その間、\_\_\_\_\_としての生活を送ったという。

\_\_\_\_\_の物語の背景？

「\_\_\_\_\_」と呼ばれ、イスラムでも尊敬されている。

ハランで父親テラは死亡、アブラムは神の声を聞く。

《主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷 父の家を離れて わたしが示す地に行きなさい。

…地上の氏族はすべて あなたによって祝福に入る。』》

創 12：1～3

新共同訳聖書巻末の地図 1 を参照。

## II. スター・プロミス

創世記 15 章を読もう。

《星を…数えてみるがよい。…あなたの子孫はこのようになる。』》 創 15：5

高齢となってなおアブラムと妻サライの間には子どもがなかった。

（後にサラと改名）

跡継ぎのことを気にするアブラムに、神は息子の誕生を予告する。

アブラムは神を信じ、それが彼の\_\_\_\_\_と認められた。

神がアブラムに約束した祝福。

それは次の世代へ受け継がれていき、やがて世界中の人を祝福に導くことになる。

が、この「星の約束」は途端に暗礁に乗り上げ、人々の思いを巻き込みつつ様々なドラマを生み出していく。

## III. 疾走する思い、生じる波紋

創世記 16 章を読もう。

《主はわたしに子供を授けてくださいません。

…わたしの女奴隷のところに入ってください。』》 創 16：2

《自分が身ごもったのを知ると、彼女は女主人を軽んじた。』》 創 16：4

《アブラムは、ハガルが産んだ男の子をイシュマエルと名付けた。』》 創 16：15

サライは、神の約束を待ちきれなかった!?

創世記 17：1～19、続けて 21：1～8 を読もう。

《わたしは、あなたとの間にわたしの\_\_\_\_\_を立て、あなたをますます増やすであろう。』》

創 17：1～2

神はアブラムと子孫の祝福を約束 → 契約を結ぶ

アブラムとサライは改名 → アブラハムとサラへ

《サラが産んだ…子をイサクと名付け、…八日目に… \_\_\_\_\_ を施した。》創 21：3～4  
男性器の包皮を切除する行為で「契約のしるし」

創世記 21：9～21 を読もう。

《ハガルよ、…恐れることはない。神は…子供の泣き声を聞かれた。》創 21：17  
荒れ野をさまよう母子を神は救う。  
人の“弱さ”が生み出す不幸な状況に示される \_\_\_\_\_。

☆その他のアブラハムにまつわるエピソード

- ・ソドムのための執り成し（創 18：16～33）  
死海南岸の不毛地帯の原因譚？  
「ソドムとゴモラ」は『 \_\_\_\_\_ 』で登場人物のセリフの中に出てきます。
- ・イサクをささげる（創 22：1～19）  
→テキスト 110～112 ページ参照。  
「予型論」的解釈＝新約で起こった出来事から旧約の内容を見る。

#### IV. 「柱」の男

マタイによる福音書 1：1～17 を読みましょう。

《アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。》新) マタ 1：1

アブラハムに始まる歴史がイエスにつながる。

『聖書』はイエスを「柱」として展開する。

そもそもメシアというのはアブラハムの子孫 \_\_\_\_\_ として待ち望まれた。

それがなぜ世界中の人に信仰されるのか。

新) ガラテヤ 3：7～14 参照。

#### V. その血の記憶

創世記 25：19～34 を読もう。

《月が満ちて出産の時が来ると、胎内にはまさしく双子がいた。》創 25:24-26

イサクの子たちの物語。父は兄エサウを愛し、母リベカは弟ヤコブを愛した。

二人が成長したある日、ヤコブは巧みな交渉でエサウの \_\_\_\_\_ を譲り受ける。

\_\_\_\_\_ をとる世界では重要なもの。

家長の地位を継ぎ、財産を相続できる。

エサウがヤコブの調理していた「赤いもの」（アドム）を食べさせてほしいと言ったことから、彼は「 \_\_\_\_\_ 」とも呼ばれるようになる。

さらに、その後…。

創世記 27：1～40 を読んでください。

《…今度はわたしの祝福を奪ってしまった。》創 27：36

エサウは父親からの \_\_\_\_\_ もヤコブに奪われてしまう。

財産を継ぐ保証のようなもの

ついに兄は弟を憎み、殺意を抱く。

この兄弟の確執は後に、エサウの子孫であるエドム人とヤコブの子孫であるイスラエルの対立につながるとされる。

エサウの殺意を知ったリベカはヤコブに叔父であるラバンの下に逃れるよう指示する。

## VI. スターダストサクセサーズ

創世記 28：10～22 を読もう。

《先端が天まで達する階段が地に向かって伸び…

神の御使いたちが…上ったり下ったりしていた。》創 28：12

不思議な夢（ \_\_\_\_\_ ）を見たヤコブに、アブラハム同様の祝福が約束される。

《地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。》創 28：14

ヤコブは、この場所を \_\_\_\_\_ （神の家）と名付ける。

ヤコブはラバンの二人の娘を妻にし、子を設ける。

やがて故郷に戻ろうとするヤコブであったが、そこには彼に殺意を抱く兄が待っていた。

複雑な思いを抱えつつ故郷に向かうその途中…。

創世記 32：23～33 を読もう。

《お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。

…神と人と闘って勝ったからだ。》創 32：29

『旧約聖書の学び』119 ページ参照。

\_\_\_\_\_ の名を与えられたヤコブの子たちが \_\_\_\_\_ の祖となり、この名は後に、  
\_\_\_\_\_ の名、 \_\_\_\_\_ の名となる。

12 部族＝ヤコブと二人の妻、二人の側女との間に生まれた 12 人の息子を祖とする氏族  
集団。その総体をイスラエル（民族）と呼ぶ。

イスラエル王国＝出エジプト後、カナンに樹立されるヘブライ人の国。

## VII. 「夢を解読する」。それが、彼の“能力”ッ！

創世記 37：1～11 を読もう。

《兄たちは…ヨセフを憎み、穏やかに話すこともできなかった。》創 37：3～4

\_\_\_\_\_ ＝ヤコブの 11 番目の息子で、母はラケル。

父の寵愛を受けたことで他の兄弟たちの妬みを買う。

兄弟間に険悪な空気が漂う中、事件が起こる。

創世記 37：12～36 を読もう。

《兄たちは…彼を捕らえて、穴に投げ込んだ。》創 37：23～24

兄たちの小さな(?) 悪意から発した行為の結果、ヨセフは \_\_\_\_\_ に売られてしまう。  
彼を買い取ったポティファルの家で次なる事件が起こる。

創世記 39：1～23 を読もう。

ポティファルの妻に強引に迫られたヨセフは、逆に狼藉を働いた嫌疑で牢に入れられてしまう。

投獄された彼を救ったのは、 \_\_\_\_\_ という不思議な“能力”であった。

ヨセフの“能力”は、彼をファラオの下へと導く。

創世記 41：1～36 を読もう。

《聞くところによれば、お前は夢の話を聞いて、解き明かすことができるそうだが。》

創 41：15

ファラオの夢を解読するヨセフ。その夢は大飢饉の到来を告げていた。

飢饉への対策をも示すヨセフ

感心したファラオは、彼に \_\_\_\_\_ を与える。

ファラオの夢は現実となるが、ヨセフの活躍によりエジプトには食料が蓄えられていた。

エジプト周辺も飢饉が襲ったため、 \_\_\_\_\_ から食料を求めてエジプトにやってきた人々があった。

《ヨセフの十人の兄たちは、…穀物を買うために下って行った。》創 42：3

## VIII. 遙かなる旅路

創世記 45：1～13 を読もう。

ヨセフは、父親共々家族をエジプトに迎える。

その時、彼は自分の歩んできた道のりに「 \_\_\_\_\_ 」があったのだと悟る。

《わたしをここへ遣わしたのは、…神です。》創 45：8

神と繰り返し出会うヤコブ。

直接声を聞かずとも最後に神の思いを悟るヨセフ。

祝福を継ぐ者たちの \_\_\_\_\_ 神。

ヤコブは死んだと思っていた息子とエジプトの地で再会する。

エジプトで生まれたヨセフの子たち、マナセとエフライムを自らの子とし、すべての息子たちを祝福する。

《「間もなく、わたしは死ぬ。

だが、神が…共にいてくださり、

きっとお前たちを先祖の国に導き帰らせてくださる。』》

創 48：21

そして、物語は結末へ。

ヨセフは言う。

《あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、  
神はそれを善に変え…てくださったのです。》創 50：20

400 年後、エジプトにはヨセフを知らない王が出る。

かつて国家の危機を救った男のことは忘れられ、増えすぎたイスラエルに対する危機感だけをファラオは募らせていく。

そして、「奇妙な冒険」の物語は新たな世代へ…。

次回、「モーセと出エジプト」。

次回に向けて

復習 今日の授業の振り返り

『旧約聖書の学び』第 5 章（1）（2）（3）

創世記 12 章～50 章を再読し、人名とエピソードを整理して覚える。

**アブラハムとヤコブ**を重点的に。

予習 復習に時間を割いてください。